

Dr Jaekeun Lee (Westminster Graduate School of Theology)

私は韓国の神学校で歴史学を教えている。なぜ日本では教会が成長しないのかとか、中国は今多くのクリスチャンがいるが、昔はそうではなかったと言われる。なぜなのか。神のみこころだから？聖書的な答えはそうかもしれない。学者や歴史家はどうしてなのかを考えてきた。韓国教会の成功には二つのキーワードがある。「後発走者」と「学習効果」である。韓国は宣教の歴史が短い。よいものは学んで、よくないものは捨てた。日本と中国を見本にして試行錯誤をした。韓国教会の成長の背後には、日本と中国との関係があった。韓国教会が自ら成長したと傲慢になることはできない。すでに日本と中国にあったものを土台として、韓国教会は成長した。だから、中国と日本の教会は韓国の教会をうらやむ必要はない。なぜなら、韓国教会は日本と中国の教会を土台として成長したのだから。

プロテスタントの教会に関しては、中国へ最初に入ったプロテスタントの宣教師はロバート・モリソンという人であった。1807年のことだった。日本は1859年に初めて宣教師を受け入れ7名の宣教師が日本に入った。ジョン・リギンスなど。韓国には1884年、ホレイス・アレンという医師であった。1885年にホレイス・アンダーウッド、ヘンリー・アベンゼラーという宣教師が韓国に来た。中国より80年、日本より30年遅れて韓国には宣教師が来た。なぜ韓国は情熱的に福音を受け入れたのか。8つの原因がある。(フィリピンもアジアにおいて教会が成長した国であるが、スペインによって強制的に改宗された国なので、南アメリカに似ていて東アジアとは少し異なる。)

**1 一国の運命が絶体絶命の状態であったので、キリスト教を受け入れた。**キリスト教は平安な中で成長するものではない。なにもかもうまくいっている時にあなたは信仰をもったのではないのではないか。苦難の中で信仰を持った人が大部分である。国家も同じ。その国が大きな苦しみを経験する時に、キリストを受け入れる。1876年に韓国は日本と江華島条約(日朝修好条規)を結ぶ。それまで韓国には外交権がなかった。外国と条約を結ぶためには中国の承認が必要であった。冊封体制が続いていた。この年初めて日本と条約を結んだ。これは2000年来の中国との関係を変える出来事であった。

孤立するのではなく、我々も世界に出ていくべきだと考えた。しかし、韓国はそこまで強い国ではなかった。他の国と渡り合うためには、国力、軍事力が必要である。条約を結ぶことによって、他の列強の国々に植民地化されることになった。韓国は自分の国を強めるために国を解放したが、1876年—1910年まではむしろ他国の餌食となってしまった。40年くらいの歴史は韓国の中で一番暗い時期である。豊かさ、独立を望んだが、失敗した時期である。そのために民の心は暗くなってしまった。2度目の条約はアメリカと1872年に結ぶ。アメリカが韓国に特権を与え教育者を送ると約束した。

教育者と医者とは宣教師であった。ホレイス・アレン師が来た。学校や教会を建てた。宣

教師は中国や日本とは違って韓国では歓迎された。なぜなら、国民が一番つらい時期に宣教師がやってきたから。日本、中国、ロシアが戦っている抑圧されている時期であった。そのような敵から守ってくれるのが宣教師と考えた。韓国は宣教師を「帝国主義者で韓国を植民地化する人々」としては見なかった。ここは重要なポイント。中国と比較してみるとわかる。

中国への宣教師はどの国からきたか？イギリス、アメリカ、ドイツ、フランスからの人々つまり帝国主義者たちであった。日本の場合はどうか。日本を開国させたのはアメリカ。キリスト教は後に自由になったが、中国ほどは帝国主義の影響を受けなかった。日本は海外の影響を受ける時に政府が重要な働きをした。西洋の文化を選択的に需要した。「和魂洋才」という語に表される。「東道西器」という言葉もある。最初から宣教師を歓迎した国とそうでなかった国とでは出発点が違う。1894年に日清戦争が起こる。1895年に閔妃暗殺事件が起こる。当時の韓国の王（高宗）はおそれてロシアに逃げた。1904年に日露戦争が勃発。日本が2つの戦争に勝利した。1905年に第二次日韓協約（これにより大韓帝国の外交権はほぼ大日本帝国に接収されることとなり、事実上保護国となった。日韓保護条約、乙巳條約、乙巳五條約、乙巳保護条約ともいう。）が結ばれる。韓国の外交権と軍事力を剥奪する条約。この時から韓国は事実上日本の植民地となる。1910年に日韓併合。韓国人は望みを失った。韓国を助けてくれると思っていた国々はみな韓国を占領しようとした。ほとんどの人は帝国主義の力と宣教師の働きの違いがわからなかった。

**2－中国と日本と違う韓国の特徴は、キリスト教信仰を自発的に受け入れた。** 中国と日本の場合は、宣教師が来て、それから信仰を受け入れた。そして長い時間がかかった。韓国は、カトリックもプロテスタントも宣教師が来る前に自ら国外で信仰を受け入れた。「後発走者」である。中国では16世紀にマテオリッチが宣教師として入国した。景教もそれ以前にあった。日本でも16世紀にポルトガル人が信仰を伝えた。16世紀にはカトリックの宣教師が中国にも日本にもいた。遠藤周作の「沈黙」に見られるように。1592年に韓国では人身売買があった。朝鮮征伐が起こる。日本軍が韓国を攻めた。海戦では韓国が勝利したが、陸戦では韓国は負けた。小西行長はカトリック教徒であったので彼の軍はカトリックの軍であった。ポルトガルの神父が従軍神父として存在していた。何万人もの捕虜が日本に連れて行かれカトリックに改宗させられた。韓国の最初のカトリック教徒は、日本で捕虜としてカトリックの信仰をもった。

18世紀に入ると、韓国の儒教学者の中で、実用的なものを追求する学者がいた。伝統的な学者からは蔑視され島流しになった。彼らは韓国を活かそうと願い、中国から西洋のものを取り入れた。中国を訪問して西洋の物品をもちこんだ。カトリックの教理書が韓国に入ってきた。宣教師はまだ存在していなかった。学者はそれらを研究した。儒教は人との関係を重要視し、男と女、老人と若者、身分の高低を分ける。ところが、カトリックはすべての人は平等だと教えたので驚いた。教理書をもって丸くなって礼拝をささげた。平信徒は礼拝を導くことができない。プロテスタントは万人祭司の教理があるが、カトリックは司祭が礼拝

を導く必要があるため中国から中国人司祭を韓国へ連れてきた。このようにして韓国でカトリックの歴史が始まった。その後、フランスから司祭が来た。その時には、フランスとの外交が結ばれていなかったため、大迫害があった。8000人の殉教者があったと言われている。

プロテスタントの信者も宣教師が来る前にすでにいた。1870年代に、中国と韓国の国境付近に商人がいた。満州に瀋陽という都市がある。スコットランド人のジョン・ロスという宣教師が伝道していたが、満州人でも中国人でもない人に出会った。韓国人の人々であった。ロスは彼らから韓国語を学び、韓国語の単語帳・辞書・文法書を作った。これが韓国で初めての韓英辞典で瀋陽で出版された。彼らの何人かは信仰をもって韓国に戻る。初めての韓国人のプロテスタント信者たちである。ソレという場所で初めて韓国語の教会ができた。宣教師はいなかった。プロテスタント信仰は聖書のみを強調する。ロスはプロテスタントの宣教師であったので、韓国人の人々に会った時聖書翻訳に力を入れロスも聖書翻訳を始める。1813年にモリソンが聖書翻訳をしたが新約聖書だけで7年かかった。聖書を訳した次の年に最初の中国人クリスチャンが生まれた。宣教師は聖書をまず翻訳するが、完全に翻訳するのに10-20年かかる。言葉が存在しても文字がない民族もあるため、文字をつくることから始めればさらに時間がかかる。

韓国では全く違うことが起こった。宣教師が来る前にすでに信者がいた。1884年に韓国に宣教師がきたが1882年にすでに中国で聖書が翻訳されていた。次の年には日本である人が韓国語の聖書を訳した。李樹廷(イ スジョン)という人。日本へ使節団として派遣されていた人の一人。1882年に日本に農業を学ぶために行き日本人の農業学者でクリスチャンの津田仙という人に出会う。言葉が通じなかったため筆談でコミュニケーションをした。漢字の聖書を津田は李にプレゼントした。「私は日本の農業を伝えることもできるが、あなたの民族が神の子になることの方が大切。」彼は宿に戻り聖書を読んだ。日本の学生にお願いして、アメリカの宣教師を呼んだ。そして、洗礼を受ける。韓国人最初の受洗者は日本で洗礼を受けた。韓国の貴族であった。日本のキリスト教の大会で演説をする。新島謙、内村鑑三が彼に機会を与えたため有名になった。もっと多くの人に福音を伝えるためには聖書の翻訳が必要だと考えた。82年に回心をして83年に聖書が完成した。どうしてそんなことができたのか。それは中国からきた漢字の聖書から翻訳したから。

アレンはもともと中国の宣教師だった。上海で宣教師と仲が悪くなって、韓国へ来た。アメリカからの宣教師であった。それぞれの教団から派遣された。韓国へ行くためにはニューヨークからサンフランシスコまでは陸路、そして船で韓国へ。ハワイと日本で休む。彼らは横浜に立ち寄った。東京が一番近い港町であったから。そこで日本で働いていた宣教師たちに会い、韓国語にすでに訳されていた聖書を受け取って韓国へ行った。

3-帝国主義との関係。中国、インド、アフリカ諸国、アラブ圏の国々、東南アジアの国々、これらの国々と列強との関係における特徴は何か。列強は軍人と宣教師を同時に送った。韓

国人にとってはそうではなかった。韓国人にとっての侵略者は日本。日本は宣教師を派遣しなかった。中国への最初の宣教師はロバート・モリソン。彼はイギリス人。香港はアヘン戦争と南京条約の結果イギリス領となった。福音を伝えた国が同時にアヘンを売っていた。普通の中国人は区別がつかない。白人の鬼たちというイメージをもっていた。自分の国を麻薬で汚染する、西洋思想によって汚染する、おそろしい人々だというイメージ。このように中国人にとっては福音を受け入れにくい背景があった。それで義和団事件が起こる。1900年に220名の宣教師、中国人クリスチャンは約32000人が殺害された。当時のクリスチャンは約20万人だったと言われている。

中国の人々はどのように西洋を見ていたのか。義和団とは清の国を排除し、外国の人を排除しようという目的があった。「北京の55日」北京で公開されたある映画。中国では上映禁止だった。チャールトン・ヘストンら主演。義和団事件によって大使館などが襲われた。義和団が宣教師たちを包囲した。国外退去した10か国ぐらいの人々。彼らがもどってきて義和団を打つ。英雄としての西洋が描かれ知識もなく邪悪な義和団の人々として描かれている。侵略者たちによって起きた反乱運動。西洋のクリスチャンたちを憎む理由があった。日本の場合はこのような反キリスト教運動はなかった。日本は政府が国民を導いた。1859年に宣教師がやってきて14年後に自由に宣教できるようになった。韓国は政府がキリスト教を支援した。私達もキリスト教を信じればアメリカのように強くなれると信じた。

4－韓国では強力な宗教体制が崩壊していた。19世紀の後半に宣教師が中国に来た。町に巨大な宗教的な建造物があった。至る所に道教の建物があった。フィリピンのセブ島で一番金持ちが住む町がある。華僑の人々がいる。そこに公園のような大きな道教寺院がある。中国人が海外へ出ていくと宗教施設を建てる。道教、儒教、仏教の建造物を宣教師たちは見て宣教師は偶像に圧倒された。日本には仏教と神社。東京にも京都にもある。そして、韓国に来てみると、巨大な宗教的な建造物はほとんどなかった。王宮や門はあった。韓国の公式宗教は儒教であった。朝鮮の時代以降は、四大門の中には宗教的建造物は存在しなかった。宗教的な建物は山の上にあった。政府がそのようにした。だから宣教師が韓国に来た時、宗教がない国だと考え新しい宗教が入りやすいと考えた。目に見えない宗教的な力があることに後で宣教師たちは気がついた。シャーマニズム、アニミズムの影響力があった。人々は神々に癒しや繁栄を求めた。そういう宗教の存在に後で気が付いた。しかし、中国や日本と比べると宗教儀式が存在しなかった

5－連合と協力について。後発走者としての役割。1807年にモリソンが中国に入った。モリソンが指導的な力を振るうことができているならば英国国教会の力が強くなっていただろう。白人たちがすむ多くの国から中国に宣教師は送られた。多くの教団教派の背景があった。それだけでなく独立宣教師の存在もあった。フェイス・ミッションの宣教師。ハドソン・テラーの中国奥地伝道団。教派の宣教師と独立宣教師との間に緊張があった。教派宣教師は

教会を建てるだけでなく、病院や学校も立てた。財政的な必要が多かったし、政府の承認が必要だったため、海沿いの都市で働いた。彼らは現地の人々とは異なる生活をした。テラーたちは、それは宣教師の働きではないと批判した。中国人のようになり、奥地で伝道した。宣教師同士でも中がよくなかった。批判し合っていた。教派間、国家間のぶつかり合いが激しかった。Sheep stealing が起こった。ある教会に信徒として登録したのに、別の教会が奪っていった。このような状況で宣教が進むだろうか。すでに帝国主義には幻滅していたのに、宣教師同士でも争いがあった。

韓国に来た宣教師たちは、中国での問題を知っていた。最初から争うことなく、一致して働こうと決断した。長老派（アンダーウッド）とメソジスト派（アベンセラ）の宣教師は同じ日に韓国に来たが、教派を超えて同士として働いた。カナダやオーストラリアの長老派からも来た。国籍も教派も違う。南北戦争後のアメリカでは北からの宣教師と南からの宣教師で異なった。北は奴隷制廃止、南は奴隷制賛成であった。南北戦争は1861年から4年間続いた。戦争前にすでに1830年にバプテストとメソジスト、長老派が分裂していた。戦争によって国は別れ教派も分裂した。教会が国の分裂に貢献した。戦争が終わっても南と北は一致できなかった。彼らの敵対心は大きかった。1938年にメソジストの教会が一致する。長老派も後に一致する。バプテストは今も一致していない。アメリカの南北の問題は現在の朝鮮半島の分裂よりも深刻。分裂した教会から宣教師が送られて、一致した教会を生み出すことができるだろうか。アメリカ、オーストラリア、カナダから来た長老派の宣教師たちは、別々の教派を作らなかった。一緒に働いた。メソジストも同じ。お互いに宣教師たちが争わないと決めた。地域を決めて、お互いに邪魔しないように宣教しようと決めた。

ブサンの例を見よう。最初はアメリカの長老派が働いていた。その後、オーストラリアの長老派の宣教師が来た。アメリカの長老派の宣教師たちは信徒たちをオーストラリアの宣教師たちに渡した。1907年になって、宣教師は交代し韓国人の牧師が誕生した。これがすぐに韓国長老教会となった。

6－リバイバル。一番重要な要因といってもよい。日本では大規模な改心はない。中国ではあったが局地的であった。満州と山東省であった。期間は短かった。全国的に発展はしなかった。相対的には弱いものであった。韓国の場合は、全国的なものであった。1907年の大リバイバルがあったが一年で終わったものではない。約七年間続いた。これが韓国教会の成長に貢献した。

7－自治・自立・自伝の原則。三自は中国では自養、自治、自伝。中国と韓国の三自は少し異なる。中国での三自は政府が主導し外国の影響を排除する運動であった。19世紀当時の三自とは、すべての現地にある教会は、宣教師が永久にその教会を導くことはできない。宣教師はいつか退かなければならない。韓国の教会は韓国人の教会であるべきで、三自の原則を維持すべきと考えた。

最初に可能なものは何か。宣教師が来て、福音を伝える。しかし、すべての人に宣教師が福音を伝えることができない。宣教師には言葉と文化の限界がある。最初の改心者が次の人に伝道していく。福音の需要度が高い地域では、自伝は確立しやすい。韓国教会の成長の主力は韓国人クリスチャンである。福音を受け入れたら、山を越え谷を越え福音を伝えた女性たちがいた。Bible Women。韓国の伝道の70-80%はこの女性たちによってなされた。そして指導者が生まれていく。そして自治が達成される。そして、最後に自立。貧しい状況の中で自立することは難しい。経済的に自立できなければ、宣教師に従属する教会になってしまう。

ジョン・メビウス宣教師はアメリカ長老派の宣教師で中国の山東省で働いていた。宣教師が教派・国籍・戦略で一致していない姿を見て彼は必ず三自がなされなければならないと信じた。教会の自立が必要であるので、信徒たちが牧師を経済的に支えなければならぬと信じた。あるところで宣教師が現地の牧師に一月100ドルくらい与えたが隣の教会では200ドル与えていた。それを知った貧しい牧師はよりお金をくれる教会へ移動するのは当然。メビウスは中国で三自の実践に失敗した。30年間中国で働いた後65歳になって引退する年になった時に、韓国での宣教を始めた。韓国のクリスチャンはメビウスのうわさを聞いていて韓国でいろいろ教えてくれると期待していた。中国で韓国と文化的に近い地域は山東省であった。3週間メビウスは韓国の牧師たちに三自の原則や中国での失敗から教えた。その結果、韓国の教会は「メビウス政策」という政策を採用した。ある時期がくれば、韓国の教会は経済的に自立することを初めから考えていた。

韓国はなぜ成功したのか。韓国教会は急速に成長したので、信徒の数が増え、献金が増えた。どのように牧師を支えたのか。信者の中には、貧しい者も金持ちもいたが、ほとんどは貧しかった。「聖なる米」という習慣があった。米をたく前に、牧師のために米を少しとっておいて一週間集めて、牧師に渡すという習慣。お金を渡せなくても、捧げることができるものをささげる。1980年代にもまだその習慣があった。私の母がいつもスプーンで米を牧師のためにとっていた。牧師は信徒の米で生活した。80年代以降は豊かになったのでそのような習慣はなくなった。18世紀後半から19世紀にかけて、韓国教会は自らの力で自立することを目標とした。信徒が協力して教会を建てあげるという目標がはっきりしていた。1日を主に捧げる。お金を捧げられない人、お米すらあげられない人は一日を教会の掃除や修理に捧げた。ご飯をつくったりした。「メビウス政策」が韓国化された。急速に自伝・自治・自立を達成した。7名の韓国人牧師が生まれた時、経済的な自立はまだであったが、教会は宣教師が中心ではない、独立した教会として成長していった。

歴史の中で上記のことが起こった。政治、経済などの影響の中で、教会は成長していく。韓国教会の成長の要因の中で一番重要なことは、「後発走者」であったということ。中国と日本で起こった出来事が、韓国の教会に大きな教訓を与えた。日本と中国の祈り、失敗がなければ、韓国教会の今はない。3つの国の教会が協力しようという動きは最近始まったこと

ではない。韓国教会は中国・日本の教会から教えられ成長してきた。これからも互いに助け合い、協力していきたい。」